



八雲と熊彫

(vol.1_2022 秋号)

YAKUMO and KUMA-BORI

八雲熊彫の特徴

YAKUMO KUMA-BORI FEATURES



毛彫り

スイスから伝わり、その後日本画の手法が取り入れられたスタイル。毛並みを細かく彫っていくもの。いわゆる熊らしい熊。



面彫り

八雲で生まれたスタイル。毛を彫らず、面で構成するため、よりモダンな雰囲気。ハツリ彫りやカット彫りもこの延長線上にある。



ハツリ彫り

手斧で割った面を重視する柴崎重行氏独自のスタイル。「柴崎彫り」とも呼ばれる。



カット彫り

引間二郎氏のスタイル。切り出しナイフを使って制作。

八雲

八雲町は北海道の南西部に位置しており、函館から北に約 80km。町名は尾張徳川家 17 代当主が豊かで平和な理想郷建設を願い、日本最古の和歌である須佐之男命(スサノオノミコト)が読んだ「八雲立つ 出雲八重垣妻籠みに 八重垣作る その八重垣を」を引用して名づけたことに由来している。

八雲町



八雲熊彫の今

熊彫作家・木彫り熊講師 千代昇さん 取材：田中由希子

八雲町木彫り熊講座の 4 代目講師。もともと教師をしていたという千代さん。受講歴に関わらず教え子には平等に接することを心がけているそう。1 年限りのつもりで引き受けた講師の仕事だったが、気づけば 10 年目。一人一人の悩みにも丁寧に向き合って指導している。「一人ひとりの生徒が真剣に取り組む姿に逆に教えてもらっている。こんな教え方でいいのかと、今でも日々反省している」と話す千代さんが、熊彫を続けてきてよかったと思うことは、いろんな人と出会えたこと。熊彫をしていなかったら会えなかった人たちとのお縁が財産だと思っているのだそう。

Q、「千代さんにとって熊彫とは？」

A、「僕の生きた人生の一つの証。」



千代さん (88)

熊彫とは

WHAT'S CARVED WOODEN BEAR ?



Gruezi

這い熊
制作・販売地 スイス
北海道第一号の木彫熊のモデル

北海道を代表する土産品として有名な木彫り熊は、北海道南西部にある八雲町で作られ始めた。当初は農村生活を豊かにする一方策として取り組まれ、それが八雲のみならず北海道を代表する土産品となった。現在では芸術として高い評価を得る作品・作家もいる。その背景には、尾張徳川家第 19 代当主の徳川義親が大きく関わっている。



『熊彫図鑑』
東京 903 会



『熊彫』
凸プレス & ELVIS PRESS

熊彫の詳細は
こちらを読んでね！

熊彫作家 増田きよたかさん 取材：青沼千鶴

熊撃ちも経験した山奥でのお百姓暮らしから、自動車に関わる仕事に転向して 40 年間一筋。趣味を楽しむようになったのは仕事を退いた 70 代からだという。熊彫を始めたのは 4 年前、ご近所に住む千代さんの影響で、講座に入門したのがきっかけ。次々に新しいことに挑戦してきた増田さんだが、奥さん曰く、近頃は工房から丸一日戻ってこないくらい熊彫に夢中になっているのだとか。独特な作風で大人気。「かわいい」と言われるのは、熊は獰猛なものと思っている本人にとっては実は本意なのだろう。「普通に彫ったらおもしろくない」という思いで、次作のイメージを日々わかせている。

Q、「増田さんにとって熊彫とは？」

A、「生きがいになってるな。うん。」



増田さん (88)

徳川さん

MR.TOKUGAWA



徳川義親
(1886-1976)
尾張徳川家十九代当主
政治家、植物学者、狩猟家

明治維新により失職した旧尾張藩士を救うべく、尾張徳川家は彼らを現在の北海道八雲町の一部に移住させ、開墾事業に着手。さらに第 19 代当主・徳川義親は大正 11 年(1922)に旅先のスイスで土産物として売られていた。木彫り熊に出会うと、「雪に閉ざされた農閑期、八雲の農民たちが楽しみながら制作でき、販売すれば現金収入にもなって生活改善にも役立つ」と思いつく。翌年、八雲にこの熊など持ち込み、大正 13 年(1924)3 月、「第一回農村美術工芸品評会」を開催。昭和 3 年(1928)「八雲農民美術研究会」を発足。木彫り熊を『熊彫』と名付けて商品化すると、その人気は一気に全国へと広まった。

北海道二海郡八雲町 冬眠あけのまつり

2022年12月3日(土)～4日(日)開催予定!

「冬眠あけ」と「冬眠まえ」に行われている木彫り熊のおまつり。トークショーやワークショップや企画展など、「木彫り熊の聖地」八雲ならではのイベントを町民有志で手作りしている。4 回目となる今回は、2022 年 12 月 3 日～4 日予定。「聖地巡礼」しに来てね!



公式ホームページ



kodamado



木彫り熊と木の店



空き家
ニーズバンク
nid



空き家を未来に繋げます
空き家と人と地域をつなぐ
マッチングサービス



木彫り熊と本の店
kodamado

千代昇氏の作品など、町内外の作家の作品を展示販売。グッズや関連書籍をゲットしよう。ピンテーゼ作品に心ゆくまで触れ合えます。本町 87
Tel0137-63-2917
営業時間
平日 9:00~12:00
14:00~17:00
土 13:00~15:00
※時間外も応相談

増田きよたか氏



八雲郵便局

北洋銀行



加藤貞夫氏

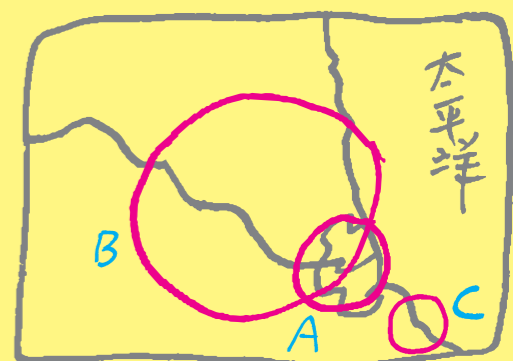
元旦以外年中無休で70年以上続くお菓子とパンの店。店主の大叔父である加藤貞夫氏の作品がいます。クマケーキに会いにきて。本町 118
Tel0137-62-2856
営業時間
9:00~18:00
(日曜 10:00~)
定休日 元旦のみ

まるみ食堂

八雲を代表する作家作品が出迎えてくれる。八雲の牛乳等を使った「二海カレー」、ご当地メニューです。引間二郎氏に特注した箸立てを見つけよう。本町 125 Tel0137-62-2734
営業時間 11:00~14:00、17:00~20:00
日曜定休

まちなかエリア
A

↑至札幌



全体MAP

A: まちなかエリア
B: 上八雲エリア
C: 浜松エリア



服部西糺造株式会社

旧尾張藩徳川家の家臣として八雲に入植した昭和2年創業の老舗。女将に会えたら特注の茂木多喜治作品を見せてもらおう。東雲町 27
Tel0137-62-2108
営業時間 8:30~17:10
直売所自販機場 24時間
※直接購入の場合、事前に電話連絡
土・日曜・祝日定休

茂木多喜治氏



小熊秀雄氏



くまのこぼろ
熊友工房

小熊秀雄さんの熊彫工房 熊彫体験に挑戦しよう！(予約制 3,000円 所要時間 2時間) 富士見町 56 Tel090-8904-6433
営業時間 9:00~17:00
不定休

八雲総合病院

引間二郎氏



温泉ホテル遊楽亭

ルームキーのほとんどは、かつてここに工房があった引間二郎氏製作のもの。たくさんの熊や道具は必見！浜松 152 Tel0137-63-4126
営業時間
[レストラン] 11:00~13:30
17:00~19:30
[日帰り温泉] 11:00~21:00

至函館↓

太平洋

浜松エリア
C

柴崎重行氏



くら屋菓子舗

木彫り熊資料館にある柴崎重行氏のレアな『帽子熊』を、どら焼きに焼印しました。資料館にはない「北斗」さんの熊にここで出会えます。東雲町 64-1 Tel0137-62-3231
営業時間 平日 9:30~18:00
日・祝日 9:00~17:00
定休日 火曜日

元山耕治氏



元山牧場直営 ELFIN

祖父元山耕治氏の作品を展示。噴火湾の景色を楽しみながらアイスクリームやソフトクリームを味わおう。浜松 366-10 Tel0137-62-2078
夏期 10:00~18:00
冬期 10:00~17:00 不定休

JR八雲駅



喫茶ホーラク

八雲の木彫り熊に囲まれるパラダイス。地域の人の憩いの場でもあり、八雲人に絡まれる可能性あり(笑) 小熊秀雄氏の作品が買えます。本町 145 Tel0137-63-2367
営業時間 10:00~15:00、18:00~23:00
不定休

八雲町木彫り熊資料館

ここに行けば、八雲の木彫り熊の特徴や歴史がまるわかり！八雲を代表する作家の作品の数々をご覧ください。末広町 154 Tel0137-63-3131
開館時間 9:00~16:30
休館日 月曜・祝日 12月29日~1月5日
入館無料

柴崎重行氏



永井製菓

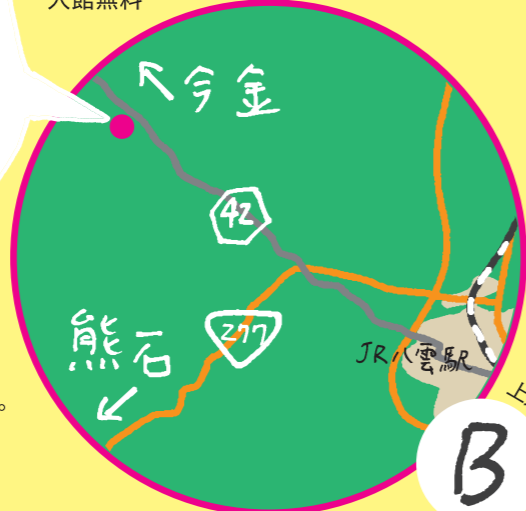
柴崎重行氏本人に許可をもらい焼印を押している「八雲の木彫り熊せんべい」はお土産にしたい一品。住初町 53 Tel0137-62-2895
営業時間 8:00~18:00
日曜定休

黒畑幸一氏



カミヤクモ 321

山奥の古い空き店舗をリノベーションした日替わりの店。木彫り熊資料館にはない黒畑幸一氏作品が建物に溶けこむようになっています。上八雲 321 Tel090-6125-0207
営業時間
水曜 88cafe 11:30~16:30
金・土 inocco muffin 11:00~16:00
冬季休業



熊彫御朱熊EP



それぞれのお店で買い物をし、スタンプ押してマップを完成させよう！完成したマップを kodamado に持ちいただくと先着 100 名様にすてきなステッカープレゼント！



木彫り熊「聖地巡礼」MAP